地域学校版

ほっとニュース

宮城県立古川支援学校　特別支援部　NO. ７　　２０１８．３．１３　発行

最近耳にする「愛着障害」。「愛着障害」による行動の問題は，発達障害による行動の問題と類似しているといわれています。しかし，類似した行動の問題でも，その対応は異なります。

本号では，「愛着障害」について和歌山大学　米澤好史 教授の「愛情の器モデル」の考え方から，愛着障害の定義，発達障害との違い・見分け方対応について考えてみたいと思います。

愛着（アタッチメント）とは？…

愛着とは，特定の人と結ぶ情緒的な心の絆と定義されます。最近，耳にする「愛着障害」は，親子関係の問題と捉えられがちですが，親子の関係に限定されたものではありません。愛着の問題を正しく理解して対応することが問題の解決につながります。

＜間違った愛着障害の理解＞

- 施設，虐待だけに特有　×　→愛着障害は，通常の家庭においても**誰にでも起こりうる**
  刺激過多の生活の現状＝愛着を妨げる刺激の多さが相対的な低下に
- 産んだ，育てた親のせい　×　→**関係性の障害**＝相性　　発達障害：脳機能の障害
- 愛着形成は取り戻せない　×　→**いつでも**取り戻せる
- 親にしか形成・修復は無理×　→**誰にでも**形成・修復可能

愛着形成の３基地機能

愛着形成には，**「安全」「安心」「探索」**の**3つの基地機能**があります。３つの基地機能は，人の**心の発達を支えるベース**になっています。愛着の問題はスペクトラム状であり，個人差があります。愛着の問題が大きい状態が愛着障害であるといえます。

安全基地機能

恐怖・不安（ネガティブな感情）から守る　＝　認知 ⇔ 行動
＊大丈夫と守ってくれる

安心基地機能

落ち着く・ほっとする・安らぐ・癒される
＝ポジティブな感情を生むつながり感

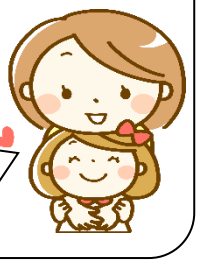
参照視：視線を向け行ってよいかの確認を取る行動が見られるか？

探索基地機能

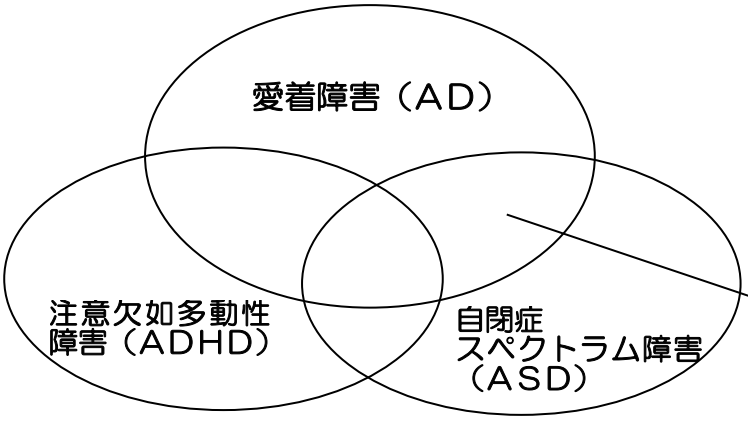
安全・安心基地から離れる（分離）←母子分離不安→不登校
安心・安全基地に帰ってくる（帰還）←お迎え逃避・徘徊・放浪
一番聞いてほしい人に報告したい→　一人で経験した感情を変化させる
＊共有することで　ポジティブな感情［↑］・ネガティブな感情［↓］
＊母に言わないで・先生怖い不登校　＝　子ども・親の［認知・感情］

心配を掛けたくないというのは，心配をかけることに不安があるから。
心配をかけても受け止めてもらえる関係（安心）が築けていない。

３つの基地機能は，学習意欲→能力（学力等）の向上に影響すると言われています。基地欠如感は，規範行動逸脱・集団生活，人間関係トラブル・思いやり・非行・攻撃性・いじめ・不登校・依存症・災害被災トラウマ等に影響します。



発達障害と愛着障害の違い



愛着障害：後天的…関係性の障害

発達障害：先天的…脳の機能障害

愛着障害のタイプ

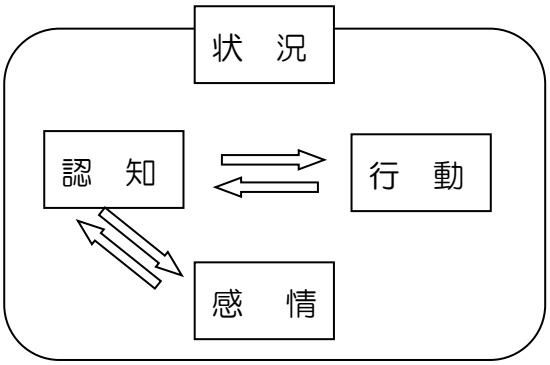
1 脱抑制タイプ（まとわりつくタイプ）
意見社交的，初対面の人にも馴れ馴れしい，無警戒，甘え

2 抑制タイプ　（警戒，不信タイプ）
警戒的，素直に甘えられず，嫌がったり，矛盾する態度

3 自閉障害と愛着障害の併存型（籠もるタイプ）
フード，帽子，タオルをかぶる，不必要なマスク等で覆う，カーテンやロッカー，机の下に隠れる
＊脱抑制タイプ併存：焦点的・混乱的・爆発的
執拗な・フラッシュバック的・パニック的攻撃
突然の感情混乱による攻撃・表情が変わる
＊抑制タイプ併存：固まる・シャットアウト
居場所感の危機感
スペクトラム障害 ＝ 程度・強度の差
※行動の問題 ＝ 特性強度の掛け算
5（ＡＳＤ）×30（ＡＤ）＝30（ＡＳＤ）×5（ＡＤ）

見極め・子ども理解

愛着障害の子どもへの支援は，発達障害との違いを理解して見極め，正しい子ども理解の上で支援を行うことが重要になります。愛着障害が要因となる場合は，問題行動へ対応しても改善につながりません。まず，子どもの気持ちを受け止める感情への対応が必要です。



問題となる行動が同じであっても，障害の違いによって異なる視点での支援が必要になります。

- ➢注意欠如多動性障害（ADHD）　行動
- ➢自閉症スペクトラム障害（ASD）　認知
- ➢愛着障害（AD）　感情

支援の視点

謝らせる指導は，状態の悪化につながります。子どもの気持ちを受け止めて、望ましい行動を伝える感情への対応が必要です。
「～な気持ちだったんだよね。～するといいね。」

愛着障害における叱る・褒める対応の問題点

「褒める」ことが良いといわれますが，愛着障害のある子どもを「叱る」・「褒める」場合には，下記の点を理解して対応することが必要になります。

「叱る」は後手の対応　⇨ 失敗　　**感情の切り替えの困難**

＊恐怖政治（威嚇的な対応）→子どもは人により行動を変える
翌年の学級崩壊の悲劇→学級崩壊の要因は前年度の厳しい指導が要因していることも！
人が変わった時にちゃんとできるかがポイント！　**いつでも・どこでも・誰とでも**
厳しいことが悪いのではなく，子どもとの愛着形成ができているかが問題！

＊腫れ物に触る対応　→自己高揚　支配感情を招く
子どもに主導権を奪われて，指導できない状況を招く

叱らない≠放任
子どもの**気持ちに共感はする**が，望ましい行動を伝え，**行動は認めない対応**を！

- 脱抑制タイプ　⇨叱ると**その行動が増える**
- 抑制タイプ　⇨叱ると**人間関係が切れる**
- 自閉障害併存タイプ　⇨叱ると**止まらないパニック攻撃**と**突然の止まらない攻撃行動**

褒める≠煽てる
「煽てる」は，子どもを理解せず，外見の特徴を捉えた**無責任な対応**であるため，子どもが根拠のない自信を増大させるまたは，煽てられただけと怒りの感情を招くことにつながります！

「褒める」ことの失敗
＊求めに応じて「褒める」は後手　⇨ 失敗　**愛情のエスカレート現象**を招く
＊みんなで勝手に「褒める」　⇨ 失敗　**愛情のつまみ食い現象**を招く
＊曖昧な「褒め方」　⇨ 失敗　解釈を委ねてしまうため，**感情の学習ができない**

愛着の問題発見チェックリスト

① 多動	愛着障害（ＡＤ）＝［ムラ］のある多動 （月曜日朝多動／週後半の多動／午前午後の時間帯や教科，居場所による多動） 注意欠如多動性障害（ＡＤＨＤ）　＝［いつも］多動 自閉症スペクトラム障害（ＡＳＤ）＝［居場所感］喪失時に多動
② モノとの関係	愛着「移行対象」の問題 （モノを触る／触りながら歩く／振り回す／なくす／落とす／モノに囲まれる）
③ 口の問題	口にモノや指を入れる／モノや身体・衣服を舐める・噛む
④ 姿勢・しぐさの問題	姿勢の崩れ／身体の揺らぎ，触る，動かす／衣服の乱れ
⑤ 人への接触	脱抑制タイプ：べたーっと抱きつく／まとわりつく／飛びつく／潜り込む／抱きつきの攻撃 抑制タイプ　：後ろ・前などの立ち位置による拒否／関わり拒絶
⑥ 床への接触	接触快欲求・包まれる安心感欠如 （靴や靴下を脱ぐ／すり足／寝転ぶ／這い回る／寝技的に蹴る）
⑦ 危険な行動	高所・投てき・痛さへの鈍感 （高い所に登る／高い所からモノを投げる／飛び降り／窓から出入り／痛がらない）
⑧ 愛情欲求行動	注目されたい行動［自作自演事件・愛情試し行動・愛情欲求エスカレート現象］ （自分で事件を起こし報告／叱られるか試し比較／満足不能／静寂潰し）
⑨ 自己防衛	ウソ・否認・他責⇒自己正当化＝安全・安心基地の欠如 （目撃されてもしたと認めない／人のせい／解離状態）
⑩ 自己評価の低さ	自己否定・自己高揚⇒意欲の低さ （「どうせできない」無力感／自信のなさ／根拠のない自信・虚勢／他者への指摘）⇒学習指導困難・低学力
⑪ 片付け	ＡＤＨＤ＝行動の困難⇔愛着障害＝（したい）気持ちのなさ⇒規範遵守行動の困難
⑫ 自閉系の愛着障害	［籠る］（フードや帽子・タオルを被る／不必要なマスク／カーテンやロッカー・戸棚に隠れる）＋［執拗な・フラッシュバック的・パニック的攻撃］＝［居場所感］の危機⇒焦点的・混乱的・爆発的攻撃（～だけを何度も／突然［理由不明］泣き叫びつつ大暴れ）
⑬ 関係性の視点	愛情の行き違い（欲求と授与の食い違い／タイミングのズレ／特性に応じた対応の欠如／気持ちの確認漏れ）

＊愛情のエスカレート現象：「～してほしい」とい感情の欲求が際限なく増加する現象
＊愛情のつまみ食い現象　：特定の人と結ぶ情緒的なこころの絆（1 対 1 の関係）の未形成により，愛着対象を渡り歩く現象　（1 対多の関係は，子どもにとって誰が愛着対象かが分かりにくい状況となる）

愛着障害と愛情の器モデル

愛着障害は，関係性の問題です。大人の働き掛けを子どもがどう受け止めたか，受け止められたかの相互作用によるものです。愛着障害は，誰にでも起こり得るもので，特別な環境や関わりによって生じるものではありません。子どもの受け止めの入り口は下記のようなタイプがあります。子どもを理解して関わることで関係性の問題が改善に向かいます。

a：底が抜けて愛情が貯まらないタイプ

脱抑制タイプ

＊安全基地の歪曲

b：器がなく愛情が貯まらないタイプ

抑制タイプ

＊愛着の未成立

c：愛情を受けとる口が小さく閉じるタイプ

自閉障害併存タイプ

d：安定的な器があるタイプ

＊安定愛着

愛情の器モデルに基づく愛着修復

愛着障害への対応は，感情への支援がポイントになります。子どもの受け止め方を理解し，「安全」「安心」「探求」の３つの基地機能を構築する対応が必要です。子どもが「安全「安心」を感じ，「愛情の器」をつくる関わりが問題となる行動の改善につながります。

愛着修復のプログラム

愛着障害は関係性の問題です。支援の第一歩は，１対１の関係づくりから始めます。

① 受け止め方の学習支援

キーパーソンの決定
キーパーソンとの**１対１の関係づくり** ＋ キーパーソンを**支えるチーム対応**
感情のラベリング →「キーパーソンと一緒なら」の意識をつくる

愛着障害の問題は，感情の未発達・未学習によるもの！問題行動の改善には感情学習が必須となります！

② 子ども主体・大人主導の働き掛け

主導権を握るための**先手支援**
子どもがほしがる前に**先手支援**で関わり愛情を（安心の基盤づくり）⇨愛情の器の入り口支援
主導権を握りやすくする**連携体制** キーパーソンへの**「情報集約」**と**「つなぐ支援」**

③ 他者との関係づくり

安全基地・安心基地機能をベースに，**探索基地づくり**を行う
キーパーソンが他の子どもや大人とのやりとりを一緒に行う**「段階的な橋渡し支援」**
感情学習（感情を教える） ⇨愛情の器の底を塞ぐ支援

④ 自立支援

キーパーソンの**複数態勢**づくり 第１キーパーソン**不在時の安心基地の確保**
参照ポイントづくり ⇨キーパーソンが居なくても**「自分の中に参照できるポイント」**を作る
受け渡しの儀式 ⇨新旧のキーパーソンの交代 **参照ポイントを複数確保**する
安心基地（ポジティブ感情の共有） ⇨**ほっとできるところ**を確保
安全基地（ネガティブ感情克服） ⇨**逃げる場所，頼れる場所**の確保
探索基地（報告の共有による感情増減） ⇨**求める，確認する存在**の確保

} **精神的自立**

参考・引用図書：やさしくわかる！ 愛着障害 米澤好史 著 ほんの森出版
「愛情の器」モデルに基づく愛着修復プログラム 米澤好史 著 福村出版
発達協会 春のセミナー「愛着障害と発達障害」資料 米澤好史 氏